

議会だより

みなみさんりく



No. 42

平成 28 年 8 月 1 日 発行



特集

みんなでつくる
私のまち P2

- 新市街地商店街いよいよ本設へ！ —— 〈補正予算〉 P 4
- 戸倉地区コミュニティーの核、復旧へ —— 〈条例改正〉 P 5
- ここが聞きたい —— 〈一般質問〉 P 6
- 請願・陳情・要望書 —— P 9
- まちづくりへの提言 —— 〈委員会報告〉 P10
- 工事契約、着々と進む —— 〈臨時議会〉 P12

みんなで作る私のまち

復興～進展と課題

新しい町の姿が見えてくる中で、課題も

課題

誰もが未経験のしごとと懸命に取り組んできた5年、復旧・復興が進んだ部分、手つかずの部分があり、課題も見えてきました。

震災以前から地域衰退が進み、「地方創生」が言われています。子育て支援や定住促進等の対策がとられていますが、人口減をくい止める有効策が見いだせておらず、減少は進むものと思われま

せん。原発事故による風評被害も収まっています。

今年度中には、新しい住宅や商店街ができ、道路などのインフラ整備が進み、町の形が見えてきます。

そこで新しいコミュニティーを作っていくかなければなりません。各地で新しいチャレンジも始まっています。

政治の役割

人の考え、生活の仕方、幸福感は千差万別です。私たちはみな「幸せになる権利」があります。

議会活動の基本は、町民の幸せを創り守ることにあります。町民の権利と努力を支え応援して、今と未来の幸せを創ることが政治の役割です。

住民参加

さまざまな問題・課題を解決することは簡単ではありません。一人ひとりの住民の心を大切に取組んでいかなければなりません。

解決には町民の参加が欠かせません。選挙権が18歳以上に引き下げられました。若い世代の積極的な参加も期待されます。



志津川地区

中心商店街予定地～賑わいと潤いのある楽しいまちづくりは



伊里前地区



被災した低地部

利用計画は



建設が進む新しい住居

コミュニティーの再構築が課題



新しい南三陸病院

診療体制充実にスタッフの確保は



基盤整備が進む農地

担い手の確保は



長須賀海岸

防潮堤で戻らない砂浜



防災対策庁舎

保存か解体かは20年後までに



高度衛生管理型の魚市場

水揚げ量の確保が課題



南三陸町議会議長 星 喜美男

「震災から5年が経過して」

平成23年3月11日に発生した東日本大震災から5年が経過し、本町ではこれまで、壊滅的な被害から「一日も早い復興」を合言葉に、町当局と議会が一丸となり、復旧・復興に全力で取り組んできました。防災集団移転促進事業は、28団地全ての高台で住宅の建設

が進み、復興市街地では新商店街の起工式を行うなど、復興に向けて一歩ずつではありますが着実に進んでいます。平成17年に南三陸町が誕生して、新町の一体感の醸成に全力を傾注し、東日本大震災発災後は、復旧・復興を最優先にしてきた10年間に、全国の議会は北海道栗山町の議会基本条例制定に始まり、議会活性化に向けて大きく前進しました。

本町議会も、震災から5年が経過して、復興・創生期間へと移行し、まちの将来像が見えてきたことから、議会改革にも取り組む事として、議会基本条例の制定及び議員定数についての検討に入りました。住民の皆さんに信頼される議会を目指して、議会の活性化及び資質の向上を図り、また、復興の加速に向けて全力で取り組んでまいります。

予算総額 585億円に

28年度補正予算は27億1664万円追加し、通常分が81億6400万円、震災復興分が503億5200万円、前年の6月補正予算総額比プラス9.2%となりました。

一般会計

地方創生(総務費)

プラットホーム構築事業の概要は。

ASC、FSCの認証などを軸に、地域資源のブランド化を図る基盤を構築するため準備委員会を立ち上げるものである。

準備委員会に一般の人を入れるのか。

現時点では考えていないが今後検討する。

国際認証のすそ野を今後どのように町内へ広げていくのか。

現時点では木材でもカキでも全体からすれば一部に過ぎず、他の分野など含めて認証の可能性と拡大を検討していく。

子育て支援(民生費)

子育て応援券の内容

は。

本年4月から生まれた第一子に3万円、第二子に5万円、第三子以降10万円を商品券で支給。来年度入学児童より1万円一律で子育て応援券を支給する。

子育て応援券を現金支給には出来ないか。

町の趣旨からも町内に還元されることが望ましく、商品券を支給することになった。

子育て応援券の予算が少ないのではないか。

県内各市町の取り組みを参考にした。子育て支援にトータルとして1億円を充てている。

新市場(農林水産費)

市場の管理マニユアルをどのように作成するのか。

衛生管理型の一定の基準をクリアしていくため、1年間ルールに従った管理運営をしながら定着を図っていく。

老人福祉(民生費)

現在の介護職員の動向と今後の職員確保の見通しは。

27年度以降若干不足気味の指摘もあった。今年度の補正予算で、事業所を立ち上げた場合100万円の奨励金、有資格者を雇用した場合24万円、無資格者の場合12万円の助成をしていく。

野球場改修(教育費)

平成の森野球場改修の設計委託料が大幅に減額されているが。

当初直営では難しいと思われていたが、新たな職員の中で委託せず設計ができる環境が整ったため。

病院事業

南三陸病院が本格稼働し、病床が38床から90床になり、常勤医が7名から9名になった。要望の多かった整形外科医が常勤となるなど、医療体制の充実を図るための補正。

特別会計

水道事業

国道45号の水道工事の進捗状況は。

4工区ではばらつきがあるが、概ね30%台である。年内には管の埋設を終わらせ、年度内に舗装復旧を行い、完成したい。

工事は夜間工事で行っているが、対応は大丈夫か。

隣接する宿泊施設や家庭に工事の進め方を説明し、慎重に進めている。



水道管の夜間工事

条例改正

戸倉地区コミュニティーの核、復旧へ

新しい戸倉公民館の使用料改定

震災前より、利用料金が高くなっているが。

建設、維持管理コストなどを積算して算定した。

社会教育の充実、コミュニティ形成のため、無料にできないか。

公平性の確保のため受益者負担としている。使用料減免の具体的な中身は。

障害者等の使用料は免除となる。

冬期利用料金の設定が無いが。

エアコンが入っている。海岸部で窓を開けると涼しいので同一料金にした。

すべての公民館を、統一した料金にできないか。今後の検討課題とする。

仮設店舗の移設、撤去費用の助成期間の延長

無償譲渡を受けている82事業所は、皆さん商店街以外に、どのように町内分布しているのか。

4〜5事業所が組んで同じ敷地内で、21カ所に分布している。沼田、旭ヶ浦、中の町、田表、港などに分散している。

現在使用している仮設店舗を、新しい商店街に移設できるのか。

移設はできない。新しいまちのランドデザインのもと、統一した景観の美しいものでつくっていく。

無償譲渡の際の移転、解体費用は。

今回の条例改正で、5年の貸し付けが、8年に延長となった。期限内であれば、町の所有となり中小機構が、その費用を負担する。

志津川西復興住宅の駐車場使用料

他の住宅との、使用料金の差があるのはなぜか。

土地の値段、工事費、維持管理費などで算定している。主な原因は土地代である。

一世帯に一区画の配分で、空き区画の利用、有効活用を指導は。

世帯数の1.5倍の数があり、空き区画は、共同での利用をお願いしている。高齢のひとり暮らしで、月1回、週1回等利用する家族のためには、貸してはいない。

東京等の企業を誘致するための固定資産税の減免

本社機能を移転する企業が、この町に1社ぐらい来るのか。

宮城県では、この制度で100人の雇用創出を計画し、北部地域では30人を目標にしている。ハードルは高い。

三陸道が開通する中で、前向きに取り組むような条例、制度か。実現すれば地域の活性化になるが、復興さなかの現状では、積極的な誘致は難しいのが現実だ。



再活用へ



にぎわいを支え続ける商店街

潮風トレイル、その周辺地の活用を

町長 魅力ある自然を、地域の中で維持可能な資源に



今野 雄紀 議員

潮風トレイルは、国立公園の指定に伴って整備するので、広く町外の方に利用しやすく一本のラインでつないだものになる。

連泊される観光客の方たちが、活用できる観光資源になるように、旧気仙街道と内山線を連結して、周遊できるように利用しては。一つの提案という形で受け止め、どうすれば可能になるか検討したい。

戸倉在郷地区のリアスの森の今後の利活用、整備の考えは。北側の一部に、戸倉浄水場築造工事が進められており、水戸辺川は、災害復旧工事できさ上げが行われている。

戸倉団地の方たちが散歩するコースにできる。この里付近の遊歩道の整備の考えは。敷地内に複数の遊歩道がある。日本文化を感じられる施設であり、今後は、海外の来訪者にむけても情報発信、受け入れ態勢を整備していく。

チャーターワークは派手さはなくとも観光資源になりうる。今後の観光資源の取り組みは。情報発信は、行者の道ひとつだ。2時間3時間かけてゆっくり歩きながら、自然を満喫する施設整備も必要だと認識している。



内山林道

買い取りした低地部の土地の利活用は

維持管理

町長 町が自ら利活用するには限界がある

買い取りした土地の面積はどれくらいか。歌津が19ha、志津川の市街地が39ha、戸倉が24haだ。全部で松原公園、陸上競技場の約70〜80倍の広さだ。

有効な利活用の方策は。移転元地と民有地がモザイク状に存在しており、そのままでは利活用しにくい状況にある。雑草地になった時の草刈り等の管理方法は。国、県に対して適切な維持管理ができるように、支援メニューの創設を要望してきたが認められなかった。町単独の予算では対応しきれないが、交通安全への支障や害虫等の発生、不法投棄を防ぐため、住民と協議し適切な維持管理ができるように進め、引き続き国、県へ要望していく。

ここが聞きたい

6月定例会では、3人の議員が6項目について一般質問を行い、各分野のさらなる復興について議論が展開されました。

(一般質問は質問者の原文のとおり掲載しています)

一般質問

潮風トレイル、その周辺地の活用は。環境省のグリーン復興プロジェクトの一環で、八戸市から相馬市まで全長700kmを整備する予定。当町では歌津石泉から神割崎までの38kmが整備される。

整備状況は。今後、ルートが正式に公表されるのは秋以降になる。

林から折立までの旧気仙街道も整備されるが、近くの平行する林道内山線も、合わせて活用でき

財政運営

公共施設の維持管理計画は

町長 財源確保のため、基金の造成を検討する

震災後、公共施設が一時集中して再建され、維持管理等に多額の費用負担が見込まれる。基金を造成しては。前向きに検討する。

国や県からの援助は見込めるのか。継続的な財政支援は難しい。基金に積み立てる余裕を作り出せるのか。将来負担を減らすため鋭意取り組む。庁舎建設基金を例にとれば、10年間で8億円余りを積み立てることができた。

必要額の見込みは。細かな試算はまだだが、4〜5億円は必要だと思ふ。

公共施設等総合管理計画によれば、公共施設は震災前の1.4倍になる。管理の方向性は。事後保全から予防保全への転換、民間活力の導入、効果の低い施設の統廃合などを進める。

震災後の特徴として、公営住宅の大幅な増加がある。今後の見直しは。床面積で震災前の3倍以上になるが、家賃収入を1億〜1億5千万円と見ており、建設時の借金の返済に充てる。いずれ、被災者以外の入居も可能とし、古い公営住宅は廃止していくことになると思ふ。施設の統廃合もある



後藤 伸太郎 議員



増える公共施設

竜館、志津川保育所について検討を加えている。今後の見直しは。作らないということではない。例えばネイチャーセンターではデジタルセンターとの比較検討をした。持続的な運営ができるよう、※フルセット主義の見直しなど知恵をしぼる。

※フルセット主義：公共サービス提供のための施設等を、全て自らが整備し保有していることとする考え方。

交通政策

持続可能な公共交通網の整備を

町長 新駅の設定等、利便性向上に努める

JR気仙沼線のBRTによる本格復旧を受け入れたが、利便性向上のためどのような交渉をしているのか。恒久的な路線としての運営を要望している。新志津川駅に加え、病院のそばに駅を新設し、院内にも案内板を設置する予定であるほか、志津川中央団地にも駅を作るよう協議中である。

鉄路とBRTは冷静に比較検討する必要があると思うが、9つの要素について表のように考えた。町長の考えは。ほぼ同じ考えである。平常時の安全性、快適性など、BRTが鉄路に劣る部分の改善をどう考えるか。

市街地以外の多くが専用道化されることで改善されると考える。町内のバスは4月から有料化されたが、問題

鉄路とBRTの比較

	速達性	運行頻度	コスト	定時性	ルート変更の柔軟性	非常時の安全性	平常時の安全性	大量輸送	快適性
鉄路	○			○			○	○	○
BRT		○	◎		◎	◎			

議会へのお願い

請願書

請願2の1

清水地区防集移転避難道取付けに関する請願書

【請願の要旨】

清水地区防災集団移転地の避難道路がない為、災害時に備えた取付け道路を請願する。

請願者 清水を考える会役員一同
清水行政区民一同
代表 渡邊重一
紹介議員 菅原 辰雄 佐藤 宣明
佐藤 正明

この請願は採択されました。

請願2の2

TPP協定を国会で批准しないことを求める請願

【請願項目】

国会決議に違反するTPP協定の批准は行わないことについての意見書を政府関係機関に提出することを請願します。

請願者 宮城県農民運動連合会
会長 鈴木道夫
紹介議員 小野寺 久幸

この請願は不採択となりました。

陳情書

陳情2の2

あさひ幼稚園新園舎建設に関する陳情書

【陳情事項】

1. 幼稚園新園舎建設に対する町よりの助成をお願い申し上げます。
2. 新園舎建設用地と旧園舎用地を交換して頂きたいをお願い申し上げます。

陳情者 学校法人平成学園 理事長
あさひ幼稚園長 小島孝尋

この陳情は一部採択されました。
(陳情事項1のみ採択する)

陳情5の1

日本政府に核兵器廃絶のための行動を求める意見書提出のお願い

【陳情の要旨】

日本政府に対して核兵器全面禁止の決断と行動を求める意見書を提出するよう要請する。

陳情者 2016年原水爆禁止国民平和大行進
宮城県実行委員会
代表委員 青木正芳 ほか14名

この陳情は採択されました。

観光整備

BRTは当町の観光振興にいかせるのか

町長 観光客の7割が自家用車利用である



及川 幸子 議員

問 町の観光は、鉄路に代わり観光バス利用が多い。今後どのように考えているのか。
答 観光と交通を結ぶには、交通網を面的に整備しなければならない。
問 町に観光振興基金設置条例があるが、今どのようなになっているのか。
答 入湯税を積み立て、3400万円ほどの現在高である。
問 町内バスは不便との声がある。登米市や石巻市は100円バスだが、弱者が利用するので子供

料金も含め改定が必要ではないか。
答 利用状況をみながら、時間を掛けて検討したい。
問 BRTでは女性はトイレの心配もある。トイレ付きバスを運行できないか。
答 JRにトイレのお願いはしない。
問 4地区それぞれ特徴を生かした観光戦略を考えてはどうか。
答 戸倉はブルーツーリズム、入谷はグリーンツーリズム、民泊も含め地域の特性を生かし、さまざまな体験をってもらう事が、一番の売りになる。
問 観光客の7割が女性と思う。被災元地をお花畑にして景観観光にしてはどうか。
答 多大な労務費が掛かるので、はいどうぞとは

いれない。
問 種や苗・土等を提供して、管理を任せてはどうか。
答 地域の人達がどう考えているのが大事であり色んな苗を提供することは可能である。
問 観光基金が大分あり、田東山から泊灯台、尾崎神社までの景観が素晴らしい。今後の地域おこしや大型バス通行、観光面に基金を使って欲しい。泊浜地区の観光をどのように考えているか。
答 国立公園の指定を受けたので、沿岸部の美しい景観を観光に取り入れて考えたい。
問 世田谷区の造園協会の方が風光明媚な場所に黒松の苗を植えた。県外の方からも景観には高い評価をいただいている。



田東山頂からの眺望

問 海の体験学習も必要である。海の幸めぐりツアーの企画も観光の目玉となるのでは。
答 泊地区の若い方々が六次産業の取組みをしている。これが地域の活性化に繋がり、また民泊受け入れも観光資源として必要である。

問 祈念公園内に亡くなられた方や行方不明者の名簿をどのような形にするのか。また記念碑は。
答 これを収める奉納庫と記念碑を園内に設置したい。
問 名前を石に刻んでほしいとの要望があるが。
答 そのような要望は町には届いていない。名前を刻む事はご遺族の確認が必要であり、難しいことである。
問 返信用はがきを封書に入れ、確認を取ればできることではないか。
答 この作業についてはさまざまな考えがあり、事務的にやるべきことではないと思うので、奉納庫に収めたい。
問 防災庁舎と高野会館の二つの震災遺構がある。国道が高くなると高野会館が分断され、災害発生

時に逃げ場所が無くなる。国道下に通路を設置できないものか。
答 国道に階段を付けることで避難は可能と思う。避難場所は志高や志小と違ってほしい。
問 国道下に通路があれば公園に行き来でき、災害の時でも、築山に避難可能ではないか。
答 あくまでも、逃げ遅れた人が築山に上るもので、避難場所ではない。
問 歌津地区には鎮魂の森がある。ここに市街地から道路等で繋げる計画があるのか。
答 JRを横切る事はできないので、駐車場を裏に作り階段等をつけて上がる手法が考えられるが、個人の森なので難しいと考える。

一般質問

Q & A

祈りの場

それぞれの祈念公園の整備を考えては

町長 慰霊碑を設置するが名前は刻まない

問 祈念公園内に亡くなられた方や行方不明者の名簿をどのような形にするのか。また記念碑は。
答 これを収める奉納庫と記念碑を園内に設置したい。
問 名前を石に刻んでほしいとの要望があるが。
答 そのような要望は町には届いていない。名前を刻む事はご遺族の確認が必要であり、難しいことである。
問 返信用はがきを封書に入れ、確認を取ればできることではないか。
答 この作業についてはさまざまな考えがあり、事務的にやるべきことではないと思うので、奉納庫に収めたい。
問 防災庁舎と高野会館の二つの震災遺構がある。国道が高くなると高野会館が分断され、災害発生

まちづくりへの提言

民生教育 常任委員会

平成28年5月26日 鳥取県倉吉市にて子育て支援・婚活支援施策等について、聞き取り調査と現地視察を行った。

産業建設 常任委員会

平成28年5月17日、18日 北海道標津町にて根室管内さけます増殖事業協会よりサケふ化放流事業について、聞き取り調査とふ化場の現地調査を行った。

総務 常任委員会

平成28年5月25日 防災計画における災害発生時の対応について、危機管理課職員より聞き取り調査を行った。

風水害対策、原子力災害対策は課題山積

調査の目的

未曾有の大災害をもたらした東日本大震災により、いまだ多くの被災者が応急仮設住宅での生活や他市町での暮らしを余儀なくされており、一日も早い復興が望まれている。

平成27年度以降も、戸倉小学校の開校や南三陸病院の開院、南三陸町小森ふ化場の落成など、本格的な復興まちづくりが

進められている。しかしながら、震災を経験した私たちにとって、安全・安心なまちづくりが最重要であり南三陸町地域防災計画に基づいた避難計画も周知されたところではあるが、新しい町づくりにおいては、行政区の再編や新しい土地に転居するなど、不安要素が多いことも現状である。

調査の概要

よって、当委員会では、防災対策、特に原子力災害対策の現状と課題について調査し、今後の安全

・安心なまちづくりの取組を検討するものである。

町の防災計画における風水害等と原子力災害に關して、災害発生時の対応について、危機管理課の職員から聞き取り調査を行った。

在25カ所が指定されており、町全体では200カ所以上になる見込みで、対応が必要であるとの説明を受けた。

原子力災害対策に關しては、情報の収集・伝達、避難計画・避難体制等について未定部分があること、防災訓練の実施など、今後詰めなければならぬ課題等が山積している。住民が不安なく暮らせるまちづくりのため、引き続き継続調査とする。

資源づくりは人づくりから

調査の目的

東日本大震災により、当町の基幹産業である農林水産業は、漁港施設の倒壊、養殖施設・家屋の流失など、生活基盤のす

水産業において、シロザケの放流事業は、震災時に稚魚を放流できなかった影響で、今年度はサケの水揚げが、非常に厳しい現状であり、水産業の再生に向け、早期に取り組まなければならない課

調査の結果

北海道根室管内においても、河川に遡上する親魚が減少傾向にあるが、不足分の卵をお互い補充し合う体制と高度な技術力を持った管理者を中心に、それぞれの河川の飼育環境が整備され健全な

にあっても現場の努力によって、約850万尾の稚魚が大海原へと旅立ったが、震災後の稚魚の放流を考えると、今後2、3年は自河川での卵の確保は難しいと思われる。

これまで行ってきた卵の譲り受けも十分とはいえず、次のふ化事業が始まる前に、垣根を越えた取組が必要である。

べてを失うという甚大な被害を受けた。

現在、被災した地域においては住宅の高台移転など造成が進み、町の復興が少しずつ計画的に進められている。

しかしながら、当町の

よって、当委員会では、水産業の取り組みを調査し、今後の水産業施策の方向性を検討するものである。

稚魚が育てられており、道内1、2のサケの漁獲高を誇る裏付けとなっている。獲る側が水系を支えるという観点から漁業者との協力体制も万全で、管内8漁業協同組合との調整会議も頻繁に行われている。

我が町でも今シーズン小森にシロザケのふ化場が完成、厳しい環境の中

国県への働きかけも視野に入れ、卵の確保に万全を期さなければならぬ。

資源づくりは人づくりからの観点から、新たなふ化施設には優れた管理体制と獲る側と育てる側との更なる協力関係の構築が必要不可欠であり、今後を見据えた体制が求められる。

切れ目のない子育て支援を

調査の目的

当町は、東日本大震災からの一日も早い生活再建を遂げるべく、町民が一丸となって復興に取り組んでいるところである。

しかしながら、少子高齢化の進展など社会情勢の変化は当町にも押し寄せており、持続可能な地域の実現を目指すためには、人口減少対策が喫緊の課題となっている。特に、今後のまちづくりを進める中で、子育て政策は最重要課題であり、町民が安心して子どもを産み、育てるためには何が

求められ、何が必要とされているか、制度を踏まえた町独自の施策について、より良い施策となるよう倉吉市の取り組みを学び、さらに研鑽を積みたいと考えている。

よって、当委員会では子育て施策の現状と課題について調査し、今後の具体的な取り組みについて検討するものである。

らの聞き取り調査と、子育て総合支援センター「おひさま」の現地視察を行った。

婚活支援事業には平成21年度から取り組まれており、参加者や成立したカップルの数も増加しているが、平成26年度からはやや方向性を変え、結婚・恋愛心理カウンセラーによるセミナーを開催、より効果の高い取り組みを実践している。

「おひさま」では0歳〜2歳くらいの子どものちとそ保護者が、職員の指導のもと、リズムに合わせて体を動かしていた。子どもの発育に良いのはもちろん、ママさん、パパさん同士の交流も生まれており、地域で子育てを応援する体制づくり

調査の概要

鳥取県倉吉市の子育て支援・婚活支援施策等について、市の担当職員か

「切れ目のない支援」を目指し倉吉市の子育て・教育支援の取り組みは実に多彩で、担当課、各関係機関、地域住民の連携の高さが伺える。

今後引き継ぎ調査が必要であるため、継続調査とする。

国保税

課税限度額引き上げ

5月
臨時
議会

●医療費控除の特例を制定
市販の薬を購入した場合、年1万2000円を超えた額を総所得から控除するもの。

問 従来の医療費控除との関係は。
答 この特例は、今まで医療費控除とは併用できないが、控除の幅は広がったと思っている。

●国保税の課税限度額の引き上げ
この改定で限度額超過世帯が150世帯となり、472万円の増収となる。軽減される世帯は23世帯あり、50万円程の減収見込み。

5月13日に開かれた臨時議会においては、10の議案を審議し、すべて原案のとおり可決しました。



保育所園庭の築山

●伊里前保育所新住所に
問 園庭のフェンスの下の隙間が大きい。
答 フェンス下の空間については、再確認して対処したい。
問 園庭にポコポコ山があるが子どもが遊ぶのに支障がないのか。
答 築山については芝生も張ったことから、転んでもケガをしない状況である。

●新井田川河川工事に係る業務受託
問 この河川そばの国道が朝夕の通勤ラッシュで2〜3kmの渋滞が発生している。それを回避するために、天王山地区から役場方面に抜ける道を早く整備してはどうか。
答 この道路については、高台避難道路の位置づけである。今年の12月に中央団地を抜けて45号線にタッチできるものと考えているので、それまで我慢してもらいたい。

●志津川東復興住宅入居開始
問 車がない世帯でも、孫子や誰か訪問者のために、有料でもいいから借りておきたい、との声があるが今後その辺を考慮すべきではないか。
答 要望があるのはわかるが、「車を所有している方に限る」としている。

3ページ (特集ページ)		議会だよりNo.41の中に誤りがありました。正しい数値は左表のとおりです。お詫びして訂正いたします。 議会広報に関する 特別委員会 委員長 後藤伸太郎
土木費	8億8,157万円	
	一人当たり 64,268円	
教育費	9億8,318万円	
	一人当たり 71,676円	
民生費	22億64万円	
	一人当たり 160,432円	

工事契約、着々と進む

3月
臨時
議会

3月29日、平成27年度最後となる臨時議会が開かれ、工事請負契約など7つの議案を審議し、すべて原案のとおり可決しました。

●中橋の工事着手
既に着手している中橋の左岸側(東側)に続き、右岸側(西側)の工事に着手。

問 ※入札が不調になった経緯は。
答 復興工事が多数ある状況下で、人員不足により業者の施工体制が整わないなどの理由から、3回の入札不調があった。

※入札不調：公共工事の受注業者を選定する際に、参加者が無く入札が成立しないこと。



両岸から工事始まる

●志津川東地区東工区の造成が完了
工法の変更などから5億9000万円(約17%)減額。

問 団地の空き状況は。
答 志津川3団地の状況は表のとおり。

問 今後の見通しは。
答 空きがなくなるよう公募していく。いずれは被災者だけでなく、一般の方の宅地購入や入居も可能になる見通し。

●最終補正予算として45億8000万円を追加
第14次の復興交付金の配分があったことなどによるもの。

問 福興市実行委員会への補助金が100万円あるが。
答 実行委員会が地域社会振興財団からの補助を受けたもの。

志津川3団地の申込状況

(申込数/整備戸数)

	東	中央	西	計	申込率
防集団地	117 / 140	108 / 135	55 / 70	280 / 345	81.2%
災害公営	245 / 265	127 / 147	78 / 82	450 / 494	91.1%
	↓	↓	↓	↓	↓
防集団地	126 / 140	112 / 135	56 / 70	294 / 345	85.2%
災害公営	231 / 265	139 / 147	74 / 82	444 / 494	89.9%

(平成28年3月末)

(平成28年6月末)

●新市場の施設使用料を設定

問 条例上、新市場の地番が複数追加されるが、合筆できないのか。
答 県の土地を借用しているため合筆はできず、旭ヶ浦1番地の住所を使用する。

問 施設使用料に伸びはあるのか。
答 施設使用料は約1.5倍に上がっており、年間120万円ほどである。

わたしの意見 あなたの提言

皆さんの考えをお聞かせください。

「五年が過ぎて思ふ事」



水口 沢 菅 原 信 哉さん

毎朝の通勤で、日々、少しずつではあります。変化してゆく町の風景と道路状況に、ゆっくりにあるけれど、目に見える形で確実に復興に向かっていくのだなあと実感させられます。仕事から、復旧・復興の仕事

をする機会がありますが、それ以外でも自分自身、何か貢献できることがないか考えると、正直すぐには思いつきません。それでも、この気持ちを持ち続けて、何か貢献できることのきっかけにしていきたいです。また、震災後、私の住んでいる地域に移転してきた方々とも

知り合う事ができ、色々な想いや考えに触れる事ができました。私自身も考えさせられる事が多く、こういった方々の繋がりが大切にしていきたいと思えました。震災から五年が過ぎ、日常生活を取り戻した人、取り戻しつつある人、まだ取り戻せない人、様々な人達の考えや意見が新しい町づくりにあると思えますが、子供からお年寄りまで、住みやすい南三陸町になればと思う日々です。



みなさんと共に あたらしい町づくり



「一人ひとりの力がこの町をつくる」



長清水 阿 部 民 子さん

私は仕事でいろんな方と出会う機会があります。皆さんが共通して「海が綺麗で食べ物美味しい」と言ってくれます。それは私が嫁いだ頃の印象と全く同じです。南三陸町は山、海里に恵まれた環境です。これが南三陸町の魅力だと思います。人口減少、後継者問題等いろいろ

な課題がありますが、今出来ることは交流人口を増やし、少しでも南三陸町の魅力を伝え移住者や協力者を増やすことだと思います。今後、子ども達がこの町に残り生活が出来る環境作り、町民の安定した収入、また、老後が安心して暮らせる町になるよう期待します。個々で出来ることは限られています。議員さん、行政の方々行動を起こし信頼を築いて下さい。議会、行政、町民がひとつになり町の未来を築いて行けるように願っています。

震災で失ったものの大きさをことあるごとに感じます。平凡で平和なあたり前の生活が、こんなにも有りがたいものだったことを改めて感じます。まちの復興はようやく目に見える復興になって来ていると感じます。一日も早く町全体が復興出来る事を願っています。復興にあた

る機会があります。皆さんが共通して「海が綺麗で食べ物美味しい」と言ってくれます。それは私が嫁いだ頃の印象と全く同じです。南三陸町は山、海里に恵まれた環境です。これが南三陸町の魅力だと思います。人口減少、後継者問題等いろいろ

皆さん議会傍聴に来てください

次回の定例議会は 9月を予定しています。

● 日程等は議会事務局にお問い合わせください。 TEL (0226) 46-1375
詳しくは「南三陸町議会」で検索してください。

編集後記

政党政治の参院選は、与党の勝利で終え、ますます臭くなるばかり。

末端の町議会で、議会活動と議員活動のすみ分けが、今だできていない。

議会広報の理想は、自分が投票した議員が、どんな発言をしたか、少しでも確認できる広報も、必要だと思っている。

悪いとは思いつつ、他の委員さんたちと、時にはぶつかりあいながら、編集作業に参加させていただいている。それが議会の活性化につながり、読者の幸せ、一日も早く安心に暮らせる日常を、取り戻せることと信じて。

今野雄紀

議会広報に関する特別委員会

委員長 後藤伸太郎

副委員長 小野寺久幸

委員 今野 雄紀

村岡 賢一

及川 幸子

佐藤 正明

発行責任者 議長 星 喜美男